

## 令和4年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会

1. 日時 令和4年7月20日(水) 13:30~15:30
2. 場所 ホテル日航大分 オアシスタワー 3階 紅梅の間
3. 出席者

### ○大分市評価・行政改革推進委員会委員

委員長	安部 茂	委員	佐藤 宝恵
副委員長	渡邊 博子	委員	谷川 真奈美
委員	石井 公二郎	委員	荒金 一義
委員	相本 健二	委員	江口 公二
委員	土屋 勝俊	委員	川谷 仁美
委員	丹羽 和美		(欠席3名)

### ○出席職員

大分市長	佐藤 樹一郎	土木建築部審議監	渡邊 豊基
大分市副市長	久渡 晃	都市計画部長	姫野 正浩
大分市副市長	佐藤 耕三	議会事務局長	広瀬 正具
教育長	佐藤 光好	上下水道部長	古城 英明
上下水道事業管理者	西田 充男	消防局長	後藤 能秀
総務部長	永松 薫	教育部長	末松 広之
企画部長	伊藤 英樹	教育部教育監	野田 秀一
財務部長	津田 克子	総務部審議監	三重野 尚子
市民部長	沖田 光宏	総務部次長兼人事課長	山口 大輔
福祉保健部長	斉藤 修造	企画部審議監	高橋 賢次
子どもすこやか部長	藤田 恵子	企画部次長	川野 洋史
環境部長	池永 浩二	企画部次長兼企画課長	小野 晃正
商工労働観光部長	三好 正昭	財務部次長	吉良 昌昭
農林水産部長	重松 勝也	財政課長	幸 紀宏

### ○事務局

行政改革推進室室長	山口 大介
行政改革推進室主査	波多野 邦広
行政改革推進室主任	伊藤 雅記
行政改革推進室主任	姫嶋 壮

4. 次第 (1) 市長挨拶  
 (2) 開会  
 (3) 議題 ①「大分市行政改革推進プラン 2018」の進捗状況及び今後の  
 取組方針について  
 ②「新・大分市行政改革推進プラン」の策定について  
 (4) 閉会

企画部次長	<p>定刻前ではございますが、皆様お揃いになりましたので始めさせていただきますと存じます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>司会を務めさせていただきます企画部次長の川野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、大分市行政改革推進プラン 2018 の進捗状況及び、今後の取組方針、並びに新・大分市行政改革推進プランの策定について事務局の方からご報告、ご説明をさせていただきました後、皆様のご意見などを伺って参りたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、終了は 15 時 30 分を予定してございます。</p> <p>それでは、開会に先立ちまして佐藤 樹一郎市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>皆様、こんにちは。大分市長 佐藤でございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、令和 4 年度第 1 回大分市行政評価・行政改革推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。安部委員長さんをはじめ、委員の皆様におかれましては、大分市政、そして行政改革推進にご支援、ご協力をいただいておりますことに対しまして、改めて感謝を申し上げます。</p> <p>コロナが全国的に大変急増しておりまして、大分県、大分市も少し前まではあまり増えていなかったのですが、今日は大分市だけで陽性者が 1,000 人を超えるような状況となっております。今のところ、あまり重篤化をする方が多くないということで、これまでの経験を踏まえてしっかり感染対策を講じながら、やることはしっかりやっというところ、様々な取組につきまして、夏のイベント等も含め、今のところ開催をさせていただこうという事で進めているところでございます。</p>

<p>企画部次長</p> <p>相本委員</p>	<p>教育関係の皆様、福祉関係の皆様、そして、子育て関係の皆様をはじめ、たくさんの方に大変厳しい状況の中でいろいろとご協力をいただいておりますことに対しまして、改めて感謝申し上げたいと存じます。</p> <p>このような中でございますけれども、例えば抗原検査センター等を拡充しながら、少しでも心配のある方はできるだけ検査を受けていただいて、そして周りに広げないということを去年の連休の前から大分市はやっておりますけれども、やっと全国でもそういう取組がかなり広がって参りました。このような取組をしながら、何とかこの状況を乗り切りまして、少しでも前のにぎわいを取り戻せればというふうに思っているところでございます。</p> <p>さて、行政改革でございますけれども、平成30年に現行の行政改革推進プランの策定をいたしまして、今年度が最終年度ということになりますので、新しいプランを作っていく必要が出てきております。</p> <p>その間、コロナはもとより、ロシアのウクライナ侵攻による国際経済の激変でございますとか、物価の高騰とかですね、様々な状況が変わってきておりますし、また、大分市におきましても少子高齢化が一層進んでいます。このような大変厳しい状況の中で、どのように行政のプライオリティをつけて、そして必要なところに限られた資源を配分していくかが大変重要な課題となっております。</p> <p>今日は、これまでの取組を報告した後に、これからの方向性等につきましてもご議論を賜る予定でございます。是非、それぞれの専門のお立場から忌憚のない厳しいご意見をいただきますようお願い申し上げます。わたくしからのご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はよろしくようお願い申し上げます。</p> <p>議事に入ります前にお知らせがございます。</p> <p>4月1日付けで、大分県中部振興局地方創生部長に就任されました相本健二様に新たに当委員会委員を委嘱しておりますのでご報告をいたします。</p> <p>相本委員さんにおかれましては今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p>
--------------------------	---

企画部次長	<p>なお本日は、長崎委員、中島委員、池邊委員におかれましては所用により欠席されております。</p> <p>それでは、ただいまから令和4年度第1回大分市行政評価・行政改革推進委員会を開会いたします。本委員会設置要綱第6条の規定に基づきまして、安部委員長に議長をお務めいただきたいと存じます。</p> <p>それでは、安部委員長よりよろしくお願い申し上げます。</p>
安部委員長	<p>皆さんこんにちは。委員長の安部でございます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、ご多忙のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>会議の開催にあたりまして、まず、委員の皆様にも確認させていただきます。会議の公開についてですが、大分市では審議会等の会議は公開に努めることとしております。本日の会議は特に非公開にするべき内容はありませんので、公開としたいと思いますよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
安部委員長	<p>また併せて、本日の会議の議事録につきましては市のホームページ等で公開するというところでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
安部委員長	<p>ご承認いただきましたので会議等の議事録につきましては、公開することにしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日1つ目の議題は、大分市行政改革推進プラン2018の進捗状況及び今後の取組方針についてでございます。</p> <p>大分市の行政改革の推進に関しまして、市民目線での議論を展開して参りたいと思いますのでどうか活発なご発言をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>議事1につきましてはプランに掲げられた「1. 市民満足と利便性の更なる向上」から、「5. 職員の意識改革と組織体制の強化」までの5つの方向性の取り組みの内容及びプラン全体の数値目標に係る進捗状況について、一括して事務局から説明を受けた後、委員の皆様方に意見質問等を伺うという形で進めさせていただきます。</p> <p>では事務局、説明をお願いいたします。</p>

<p>行政改革推進室長</p>	<p>企画課行政改革推進室長の山口でございます。各議題の説明につきましては私からさせていただきます。</p> <p>本日使用する会議資料は3種類ございます。右肩に【議題1】資料①と記載されたA3判横の資料、右肩に【議題1】資料②と記載されたA4判横でホッチキス止めされた資料、右肩に【議題2】資料と記載されたA3判横の資料の3つでございます。</p> <p>なお、このほか本日の説明には使用いたしません、参考資料として、A3判横でホッチキス止めされた『大分市行政改革推進プラン2018』令和3年度実績・令和4年度計画（概要版）及び、黄色の冊子「大分市行政改革推進プラン2018」を机上にお配りしております。</p> <p>それでは、右肩に【議題1】資料①と記載された資料、『大分市行政改革推進プラン2018』の進捗状況及び今後の取組方針について（概要）をご覧ください。</p> <p>初めに、「1」の「情勢及び課題の総括」について説明させていただきます。「大分市行政改革推進プラン2018」の計画期間の4年目に当たる令和3年度においては、自主財源等の確保の促進など各種取組を着実に実施したことで、単年度の改善効果額としては、この4年間で最高の約17億円を計上することができ、累積効果額も、5年間の目標である75億円に達しました。</p> <p>資料の右側をご覧ください。「プラン2018における推進項目ごとの単年度効果実績の推移等」として12のグラフを掲載しております。「単年度効果額」とは、その年度に実施した取組により当該年度中に発生した改善効果を金額で表したものです。こちらの青枠のグラフでは、本プランに掲げる38の推進項目のうち効果額に関連する10の推進項目について、それぞれの各年度の単年度効果額を示しており、真ん中の列の一番下の太い青枠のグラフには、これらの総計を年度ごとに示しております。この「単年度の改善効果額の計」は、プラン開始後3年間は14億円代で推移していましたが、先ほど触れましたとおり、プラン4年目の令和3年度は約17億円となりました。</p> <p>目標である75億円に対する進捗を表す効果額の積算では、これら単年度効果額に加えて、取組を実施した翌年度以降にも改善の影響が及ぶ場合はこれを加算いたしております。こうした累積分も加えた効果額の合計は、右側の列の一番下のオレンジの枠のグラフにその推移を示しておりますように、5年間の計画目標である75億円に4年目で達した状況となっております。</p>
-----------------	---

資料の左側にお戻りください。上から4行目の末尾のところですが、こうした効果額に関連する推進項目以外についても、各種証明書等の交付における利便性の向上やマイナンバーカードの普及促進に向けた取組、ICTを活用した業務改革の取組などを、プランに沿って推進しております。

一方で、この計画期間中の行政運営においては、プランに沿った取組の推進に加えて、策定時に想定していなかった新型コロナウイルスの感染拡大による新たなニーズやリスクへの対応も図ってまいりました。こうした中、令和3年10月公表の本市の財政収支の中期見通しでは、今後も扶助費を始めとした社会保障関係費や新環境センター整備事業など投資的経費の増加に加え、感染症対策に係る経費が見込まれるところであり、前述のようにプランの目標に対して順調に進捗している状況下においても、厳しい財政運営を強いられる状況が予想されています。

これらの情勢を踏まえ、令和4年度においては、計画目標は達成しましたが、財政健全化に向けて現プランに掲げる取組の更なる推進を図るとともに、当初の想定を超える急激な社会変革に対しても迅速に対応しながら今後の見通しや課題を検証し、次期プランでの計画的な実施に繋げていく必要があると考えております。

次に、「2」の『大分市行政改革推進プラン2018』の令和3年度実績及び令和4年度計画』についてでございます。38項目全ての内容につきましては、先ほど参考資料とお伝えいたしましたA3判横の概要版にまとめておりますが、本日は、右肩に【議題1】資料②と記載されたA4判横の資料、『大分市行政改革推進プラン2018』の進捗状況及び今後の取組方針について（主な推進項目に係る令和3年度実績及び令和4年度計画）」に沿ってご説明をいたします。

それでは、資料の2ページをお開き願います。まず、1本目の柱、「市民満足と利便性のさらなる向上」で、「推進項目4 市民満足度の高い行政サービスの推進」のうちの、「各種証明書等の交付における利便性向上」の取組でございます。令和3年度は、10月から住民票の写し等がマイナンバーカードを使ってオンラインで申請できるようになったほか、2月からは窓口での申請に係る手数料の支払いにキャッシュレス決済を導入しました。なお、平成30年度に導入した住民票の写し等のマイナンバーカードによるコンビニ交付サービスに

つきましては、従前の証明書等自動交付機に代わるサービスとして、今後もさらなる利用促進を図る必要があり、令和4年度もサービスの周知に努めているところでございます。

次の3ページをご覧ください。関連して、「マイナンバーカードの普及促進」の取組でございます。令和3年度は、2月1日に「大分市マイナンバーカードセンター」を開設するなど、申請の促進と交付の円滑化に取り組み、年度末におけるカード交付率は、対前年度比で約15ポイント増の46.19%となりました。令和4年度は、国がほぼ全国民のカード保有を目指しておりますことから、マイナンバーカードセンターの利用を呼びかけながら、さらなる取得促進に取り組んでまいります。

次の4ページをご覧ください。2本目の柱、「多様な主体との連携による活力の創造」で、「推進項目7 市民のまちづくりへの参加・参画機会の確保」のうちの「大分市まちづくり自治基本条例の推進」の取組でございます。令和3年度は、「大分市まちづくり自治基本条例検討委員会」を設置し、市民委員の皆様から改善点についての意見をいただきました。令和4年度はその意見を踏まえ、SNS等での情報発信による若い世代への周知に努めてまいります。

次の5ページをご覧ください。「推進項目12 県・周辺市町村等との連携強化」のうちの「大分都市広域圏との連携」の取組でございます。平成28年3月に、大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町で形成した大分都市広域圏において、令和3年度は、デジタル部会の発足や圏域の若手職員による政策研究として第2期未来創造塾の開講などに取り組みました。令和4年度は、更なる連携の推進に向けて、「図書館相互利用部会」の設置や、公共施設の相互利用に係る「公共施設案内・予約システム」の更新に向けた広域圏での調整などに取り組んでいます。

次の6ページをご覧ください。3本目の柱、「安定的な行財政基盤の強化」で、「推進項目15 業務執行方式の見直し」のうちの「学校給食調理業務の見直し」の取組でございます。学校給食調理業務の執行体制につきましては、図に示しておりますように、市役所本庁の体育保健課、東部及び西部の共同調理場に給食指導員をおき、市内各小

学校の調理員への指導・助言等を行う形に見直しを行う中で、プラン初年度から調理業務の民間委託を進めているところであり、累積の改善効果は約 2.1 億円となっております。令和 3 年度は、栄養教諭未配置校への委託の手法などが課題となる中で、新規の委託はございませんでしたが、令和 4 年度には、8 月から新たに 1 校導入を予定しております。

次の 7 ページをご覧ください。「学校主事業務の見直し」の取組でございます。学校主事業務の執行体制につきましては、図に示しておりますように、市内 4 エリアの拠点校の学校主事業務支援室に室長と指導員を配置し、各エリア内の小中学校の学校主事を指導支援する体制を充実させることで、職員配置の適正化を図っているところでございます。令和 3 年度の単年度効果は約 2,600 万円で、累積の効果額は約 1 億円となっております。

次の 8 ページをご覧ください。「推進項目 19 計画的保全による公共施設等の長寿命化」のうちの「教育施設の計画的な長寿命化の推進」の取組でございます。現行プランの期間中における長寿命化計画を表に示しておりますが、令和 3 年度は、別保小学校南校舎など 5 件の長寿命化工事を完了しており、単年度効果は約 3,700 万で、累積の効果額は約 1.9 億円となっております。令和 4 年度は、植田西中学校体育館の長寿命化工事を実施しております。

次の 9 ページをご覧ください。4 本目の柱「合理的・効率的な事業手法による行政運営」で、「推進項目 27 行政事務の効率化」のうちの「エコ・オフィス運動の推進」の取組でございます。事務の効率化とペーパーレスの推進に向け、文書の決裁事務等に係る電子化率の向上に努めており、令和 3 年度は約 84% となっております。その下が、「B P R（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）手法を活用した業務改革の推進」の取組でございます。市役所内の機械的・定型的な業務に R P A と呼ばれているソフトウェアのロボットなどを導入し効率化を図っているもので、効果的な実施には業務プロセスの抜本的な見直しが必要とされる中、年々業務時間の削減効果も上がってきており、令和 3 年度は、3,115 時間の削減効果が得られました。

次の 10 ページをご覧ください。「推進項目 29 自主財源等の確保



の促進」のうちの「ネーミングライツの導入」の取組でございます。現行プラン1年目からのネーミングライツ契約を一覧表に示しておりますが、令和3年度は、駄原総合運動公園についての、5年間で2,525万円の更新契約に加え、市営陸上競技場及び津留運動公園自由広場・テニスコートについての、5年間で4,750万円の新規契約を行いました。令和4年度は、これまで応募がなく課題となっている「施設等提案募集型」についてのより良い手法等の調査を進めているところでございます。

次の11ページをご覧ください。同じく「自主財源の確保の促進」のうちの「ふるさと納税制度の活用」の取組でございます。令和3年度は、新たに3つのサイトに掲載を開始し、計5サイトで受け入れを行ったことで寄附額が約9.8億円と倍増し、単年度効果額は約2.8億円、累積の効果額は約4.2億円となっておりますが、一部人気返礼品の在庫切れにより、寄附の機会損失につながるケースも見られることから、令和4年度は、返礼品の安定供給や寄付単価の向上に努めるとともに、サイトの掲載数をさらに増やしていくこととしています。その下が、「推進項目31 公営企業における健全経営の推進」のうちの「他の公共工事との同時施工」の取組でございます。上下水道局における取組として本プランに掲げたものの一つで、効率的・効果的な施工及びコスト縮減のため、可能な限り他の公共工事との同時施工を図っているものです。令和3年度の実績は60件で、単年度効果額は約1.6億円、累積の効果額は約4.2億円となっております。

次の12ページをご覧ください。5つ目の柱、「職員の意識改革と組織体制の強化」で、「推進項目33 働きやすい職場環境づくり」のうちの「職員の働き方改革の推進」の取組でございます。令和元年度から施行している「大分市職員働き方改革推進プログラム」に基づく取組で、令和3年度は、コロナによる業務増への対応として、引き続き保健所における週休日振替・休日代休制度の試行実施などに取り組んでいるところですが、長時間勤務者が依然として多いことが課題となっております。その下が、「女性職員の活躍に向けた取組の推進」でございます。令和2年度から新しくなった「大分市職員活躍推進プラン」に基づき、女性活躍と子育て支援の一体的な取組の推進を図っており、資料には、女性職員の管理職への登用に向けた進捗についての実績を記載しております。

	<p>最後になります、次の 13 ページをご覧ください。こちらは、「行政改革推進プラン 2018」の計画目標としている 5 年間の効果額 75 億円に向けた進捗状況で、先ほどご覧いただいた資料①のグラフに掲載した 10 の推進プログラムごとに、それぞれ計上した単年度効果額とプラン初年度である平成 30 年度からの累積効果額の合計の数字を記載しております。令和 3 年度の単年度の改善効果額の計は、16 億 9,767 万 8 千円、プラン期間における累積効果額は、赤枠で囲んだ 75 億 361 万円となり、冒頭で申し上げましたとおり、計画 4 年目で目標額 75 億円に達する結果となったところでございます。</p> <p>議題 1 についての説明は、以上でございます。</p>
安部委員長	<p>ただいまの事務局の説明についてご意見、ご質問があればお願いします。江口委員をお願いします。</p>
江口委員	<p>推進項目 15 についてです。</p> <p>業務執行方式の見直しで追加して欲しいのは水泳の授業です。金池小学校では、水泳の授業を民間のスポーツクラブに委託している。プールを新設した場合、維持管理費が非常に掛かりますし、職員の負担軽減にも繋がるという点で、この事業を民間に委ねるといのはとてもいいことだと思います。ただ、メリットとデメリットがあると思いますので、それも含めて検討していただけたらいいかなと思います。</p>
教育部長	<p>教育部長の末松と申します。ご意見ありがとうございます。</p> <p>民間プール活用委託事業につきましては、老朽化した学校プールの維持管理費等の費用、水質管理等に係る教員の負担等の課題がある中で、今年度、金池小学校をモデル校として実施いたしているところでございます。</p> <p>水泳授業の終了後に事業の検証を行い、今後の方向性について対応を検討して参りたいと考えております。ご意見どうもありがとうございます。</p>
安部委員長	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。丹羽委員をお願いします。</p>
丹羽委員	<p>大分市の行政改革推進プラン 2018 において、計画 4 年目でその改善効果額が 75 億円に達成したということをご説明いただきました。</p>

<p>企画部長</p>	<p>黄色い冊子の「行政改革推進プラン 2018」の7ページに令和3年度の全体収支見通しをマイナス36億円としていて、令和4年度はその4分の5を掛けて45億円と見込み、それから投資的経費を30億円として、累計改善目標額をトータル75億円に設定したと理解しましたがそれでよろしいですか。</p> <p>よろしいです。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>非常に良好な行政改革の進捗だと私は思いました。さらにこのプランの実行の中で、最中に未曾有のコロナ感染拡大の阻止という行政課題が生じましたが、大分市はいち早く大分駅前抗原検査センターを開設して、先ほど市長がおっしゃいましたように第7波を受けて、7月11日には3ヶ所のセンターの時間延長、昨日は植田にもセンター開設を決定していただきました。体温計を使うような気持ちで利用して感染拡大防止に努めて欲しいとおっしゃっていただいたこと、私ども福祉施設を運営しておりますけれども、施設の利用者や、職員その家族については非常に大きな応援となっております。</p> <p>人は、見えないこと、それからわからないことが目の前にあるときに非常に不安を感じます。大分市の抗原検査所設置と運営のあり方は、全国に先駆けた感染拡大防止策であります。一つの家族、家庭の中においても感染の有無が明確になれば、なすべきことをしてダメージを最小限に抑えられる行動にもあらわれますし、行政の方が考えてらっしゃる以上に非常にありがたい効果的なことだと思っています。市民の命を守るための施策を積極的に行ってくださっていることに感謝しております。</p> <p>さて、本日の委員会での資料では、『当初の想定を超える急激な社会変革に対して迅速に対応しつつ、財政健全化に向けて、今後の見通しや課題を検証し、次期プランでの計画の実施の必要性』をあげておられます。</p> <p>この点について、質問です。</p> <p>近年、政策の中に、『満足度の指標』が活用されるようになってきています。政策の立案や先ほど市長がおっしゃったプライオリティ、優先度の決定、それから政策のモニタリング。その他のところで、満足度の指標をウェルビーイング指標とかですね、非常に活用されるようになってきています。</p> <p>長きにわたって行動を制約され、非日常を強いられるコロナ禍のな</p>

	<p>かで、身体健康だけではなく、心や社会の健康も非常に重要視されるなかで、市民を中心に考えた施策を考えるときに、市民の満足度調査は重要だと思います。4月15日付で『令和3年度大分市民意識調査』が発表されました。42施策についての回答において、『重要度』と『満足度』の乖離が大きくて、果たしてこれが正しく満足度を表しているリサーチしたことになっているだろうか？ということを感じました。これから令和5年からの『新・大分市行政改革推進プラン』をプランニングする中で非常に大事なことだと思いますので、意識調査のほかに満足度、市民満足度についてリサーチされていることがあればお知らせいただきたいと思います。</p>
<p>企画部長</p>	<p>企画部長の伊藤でございます。</p> <p>ご指摘いただきました4月15日の市民満足度調査は、これが大分市で一番大きな市民調査でございます。これ以外の調査で満足度を計るという調査を見出していない状況でございます。満足度と重要度との乖離ということにつきましては、こちらの方といたしましても、その時々的情勢によって市民の皆様の受け取り方がそこに反映されているのではないかと考えております。</p> <p>今後いろいろな調査をするなかで、市民の満足度を測っていきたいと考えております。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>無作為抽出で、3,000通を出されて38.2%の回収率での分析でした。42施策の中で市民の皆さんが重要と考えているのが、『防災・危機管理体制』、それから2番目が『子ども・子育ての支援の充実』でした。</p> <p>その2件が、満足度というそれぞれ25位と32位に落ちるのですが、それを申し上げているのではなく、わたくしは今まで外部評価させていただく中で、この二つの施策について大分市は非常に成果を上げていらっしゃると思っております。その結果がうまく反映されていない要因が表し方なのか、質問の設定なのか、何かその満足度をきちんと推し測るような方法を考えて、それを施策に生かすということになさっていただくとよいと思います。本当に成果を上げられているので、惜しいなと思ひまして、その意味で意見を申し上げました。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。石井委員お願いします。</p>

<p>石井委員</p>	<p>まずは累計で 75 億円の効果を上げているということについて、大変すばらしい効果だと思っております。</p> <p>特に私ども部会からいろいろな意見を言わせていただいておりますが、推進項目 29 のネーミングライツの取組についても実績を早速挙げていただいております、ちゃんと意見が通っているのだなと思っておりますところがございます。</p> <p>それで一つですね、根本的なところをちょっとお尋ねしたいと思っております。この行政改革推進プランの 7 ページに財政収支の中期見通しというのがございます。2018 年から 2021 年までの 4 年間の歳入を足していきますと 4 年間で 7,177 億円の歳入ということになります。一方歳出の方は、7,213 億円の 4 年間の歳出と、この差額がマイナスの 36 億円で非常に財政が厳しい、よって行財政改革が必要であるということの根本的なところがあるかと思っております。</p> <p>実績がどうであったかということで、大分市でオープンにされている数字を捉えさせていただきますと、平成 30 年度、2018 年度は歳入の方が 1,598 億円であろうかと思っております。間違えていたら言ってください。ホームページから取りました。令和元年度の 1,662 億円等々で、累計としては 7,400 億円の歳入がございました。一方、歳出の方は、7,064 億円で、差額としてはプラス 366 億円と、一般会計の中ではなっております。</p> <p>計画はマイナス 36 億円、計画というか見通しですね、実績はプラスの 366 億円と。この辺りをどのように捉えているのだろうか。と、いうところが一つございます。</p> <p>そして、7,177 億円の見通しに対して 7,400 億円という事で収入は非常に多くなってきています。市税等々がしっかり確保できているかというところは、今後の中長期的な課題として非常に大きいところであると思っておりますが、固定資産税等々も含めてですね。</p> <p>実はその将来の税収を呼び込むための施策が必要ではないかと思っております、特にこのコロナ禍において政府も 67 兆円という過去最高の税収があった。いろいろな税収があると思いますが、大分市として、この実態をどう評価しているのか。そして、単年度としての行政改革ということではなくて中長期的なものが必要ではないか。市債の発行などの景気刺激策があってもいいのではないか。というふうに思っているところであります。その辺りのところのお考えをお聞かせいただければというふうに思います。よろしく申し上げます。</p>
-------------	---

<p>財務部長</p>	<p>財務部の津田と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>大分市で今後の5年間で中長期の見込みということで毎年10月ぐらゐに公表させていただいているところですが、それはあくまでも当該年度からいろいろな義務的経費だったりとか、今後いろいろな新しい施設の整備だったり、現時点で考えられるさまざまな案件について見込んだ数字でございますので、どうしてもその中長期の見通しと実際の数字というのは多少なりとも違ってくる可能性がございます。また、税に対するいろいろな今後の中長期的な増収に向けての取組ということでございますが、今のところ、しっかりと適正に管理して、それに対してきちっと納税をしていただく、そして、それを市民の皆さんの十分なサービスに生かしていく、という基本的なところでしか、こちらの体制としてはまだ、そういった新しい増収に向けた取組というところまでは考えが及んでおりません。ただ、例えば未収金についてご説明させていただきますと、一昔前はかなり税額に対する未収金がありましたけれども、そういった部分については全庁的に対策会議を設けまして、いろいろな取組をこの中で、未収金の額も減額させていくことができました。今後もいろいろな取組を考えていかないといけないと思っているところではございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ちょっと付け加えさせていただきますと、先ほど、石井委員がおっしゃった通り、税収が増えていることにより、思ったよりも収入が増えています。ところが、支出の方は、行政改革の努力により、いろいろなものを先延ばしにしたり、節約などにより、先ほど石井委員がおっしゃった通り、冊子の7ページに5年間の見通しがありますけれども、いつも大体少しずつ足りないところの差が縮まっていって、単年度で見るとプラスになるという状況が多いです。</p> <p>ただ、この数年はですね、例えば、コロナ対策で抗原検査センターも当初は国が措置してくれませんでしたので、実費で、大分市の市民の税金で措置をしていたわけです。ただやはり、こういうものは、国全体で取り組むべきだということを何回も何回も国に話をしまして、ようやく去年の暮れぐらいからワクチン検査パッケージというフレームの中で、無料検査をした場合には国が措置をしますということで国の予算が使えるようになりました。</p> <p>つまり、取り戻すような努力をしまして、少しずつ穴を埋めていきました。</p> <p>ただ、そういう形で措置が行われませんと、大きな穴が空いてしま</p>

う可能性があるということで、大体今まで 200 億円ぐらい貯金とい  
いますか主要三基金があったのですが、それが少しずつ減ってきてい  
るという状況があるのも確かでございます。

そういう状況の中で国のフィスカル・ポリシーと地方自治体とで何  
が違うかと言いますと、国は通貨の発行権がありますから倒産しませ  
ん。ところが、地方自治体というのはある一定以上財政が悪化します  
と、起債が制限され、財政再建団体となり、普通の企業と同じように  
倒産をする可能性のあるのが地方自治体、市町村です。

そういう状況の中で、財政規律を見ながら、財政再建団体等に陥ら  
ないように、しっかり財政の規律を図っていくというのが大変重要で  
あります。ただ一方で、必要以上にそれを進めると、国は一生懸命  
赤字拡大をさせて経済を刺激しても、自治体が貯金を貯め込んでいっ  
て、全体としては景気にマイナスの影響を与えているのではないかと  
の議論にもなります。それからもう一つは国から見ると、一生懸命赤  
字を拡大させていろいろな政策を講じていても、そのお金が地方自治  
体の貯金に回ってしまっていて、地方自治体の貯金が膨らんでいっ  
ているのではないかという議論もあります。そうした場合には、地方交  
付税を減らして地方自治体からお金を国の方に戻してもらわなけれ  
ばならないという議論になります。

そうすると、以前は約 200 億円あった基金が現在 160 億円くらい  
になっているんですけど、それをもっと減らしていかないとか国から  
地方交付税を減らされてしまうんじゃないかという議論もあります。  
そういう議論の中で、実際の予算の組み方は本当に難しいんですけれ  
ど、先ほど、財務部長がご説明しました通り、倒産しないように健全  
な財政を維持していく必要があります。例えば、公債比率や財政の硬  
直化の状況などを見ながら、健全性を確保していくということになり  
ます。

ただ、先ほど言いました通り、貯め込み過ぎて取られるとかですね、  
景気にマイナスの効果を与えているようなことがないだろうかとい  
うことをやはり常に見ていかなければいけませんので、しっかりと行  
政改革に取り組み、財源を確保した上で、それを未来への投資に割り  
振っていくというふうな姿勢で臨んでいます。最初に投資ありきで、  
それによって税収を確保してそれが実際に戻ってくるという考え方  
というのはですね、確かに、国全体の投資としてはそれが足りないの  
で日本の成長率が下がってきているという議論はまさに私はその通  
りだと思うんですけど、自治体の場合は同じような考え方で財政を組

<p>石井委員</p>	<p>んでいくというのは、リスクがあるという点で、やりにくいところがあるかなと感じているところでございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>平成 29 年度に大分市が発行している財政の状況がありまして、これを見ると、市長が言われたように、公債比率やプライマリーバランスなどが一目でわかるような指標がついております。これを見た時に、財源を蓄えてから投資というところも非常によくわかる話ではあるのですが、やっぱり市税が増えるような施策、例えば市税の徴収事務に人をどんどん投入していくという考え方もあるでしょうし、職員 1 人当たりの市民数ってよく出ていると思いますが、1 人当たりの税収という指標を入れても面白いのではないかなとも思います。やっぱり税収をしっかりと確保していく必要があると思います。</p> <p>その一つに、先ほど給食センターの話がございました。給食センターを受注しているのは、県外の業者、市外の業者が多いのではないかなというところでございます。市内業者を育てていくという考え方もあるのではないかな。そこで税収を上げていくということもあるのではないかな。そういうことも含めて、今からのこの運営の中において市税のところを、入りのところを今から作っていくのだと。こういうところについては、これは民間もおそらく市も一緒でございまして、入りを作っていくところを重点的に一つ考えていただければということで申し上げた次第でございます。是非、よろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>石井委員、ありがとうございました。</p> <p>ご指摘の通りですね、市民 1 人当たりとかそういうところはベンチマークをしながら、他の中核市と比較をしながらですね、かけ離れているのは行政サービスが極端に低かったり、逆に充実し過ぎているというのは人が多かったりというところがあると思われま。そういうところを比較していきながら、石井委員がおっしゃったように地元の中企業の皆さんにできるだけ活躍してもらえよう優先的な発注をしていくことは、土木や建築等については、ある程度そういう点に配慮しながら発注を行ってはいらるんですけど、一方で公正な競争というのもありまして、結果として、必ずしも全部はできていませんが、そういう取組というのは今後も必要だと思います。</p> <p>もう一つは、例えば商工予算関係ですね。企業の誘致にあたりまし</p>



	<p>て、大企業も含めて補助金等の支援措置を行っております。例えば設備投資を行い、雇用が増えるときにですね、それに応じた支援をしているんですけど、それは、当然経済の発展となり、固定資産税、事業所税、企業の法人税の地方割等が税収に回ってきます。今後の取組としましては、工業用地が足りなくなっておりまして、特に県の流通団地に空きがなくなってきたり、企業の誘致に不足をきたしているところがございますので、工業団地等の整備を進めていきまして、企業誘致の推進を図ってまいりたいと考えております。</p>
安部委員長	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。荒金委員お願いします。</p>
荒金委員	<p>荒金でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>市民満足と利便性のさらなる向上についてということで、マイナンバーカードの件についてお伺いをしたいと思います。マイナンバーカードの交付率が最近伸びているように見受けられますが、国は、今年度中に交付率を100%にしていると述べています。行政としては、市報等で啓発活動を行っていると思いますが、現状のままで大丈夫かなと感じますので、交付率向上のために、汗をかいていただけたらと思います。</p> <p>それから、先程も他の委員さんから意見が出ていました民間委託ですが、民間委託により、大分の地場企業を育てるといのが必要だと思います。私も商売をやっているのですが、入札では大企業が落札する事も多いと思われまして、個々を育てるとい形で地場の企業の育成にも努めていただけたらありがたいと思います。</p>
市民部長	<p>市民部長の沖田でございます。</p> <p>現在、大分市のマイナンバーカードの普及率が6月末で48.5%程度という普及率になっております。国が今年度中に100%を目指すということで取組を進めていますが、今年度で取組は4年目になりますけれども、単年度ごとの取得率を見ますと、大体1年間で15~16%の方が取得をされているといった状況になっているところであります。これからしますと、大分市の本年度末の見込みとしましては、60%ちょっと、62~63%程度がマックスではないかというふうな見方をしております。</p> <p>ただ、それからいきますと、国が100%を目指すということで言っておりますので、今、これをできるだけ伸ばす取組といたしまして、</p>

	<p>現在、国が新たなポイントを追加して、1人2万円とかいう取組をやっていますが、申請の期限が9月末、マイナンバーカードを取得するのに9月末までに申請した方にはポイントが付くという形になっておりますので、それまでが一定程度勝負だというふうに考えております。そういった中で今、大分市の取組といたしましては、企業を訪問して、そこでマイナンバーカードの申請をしていただいたり、出張をしてですね、いろいろな出先機関だったり、商業施設、公民館等に向かう中で取得をしていただくといったような取組を、9月末に向けて今、強化をしているところであります。</p> <p>大分市内の実際のマイナンバーカードの取得の状況を見てみますと、委員さんへの事前説明の際のお話の中で高齢者の方の取得が少ないのではないかというお話をいただきましたけれども、実際に見てみますと、90代以上の方については確かに低いんですけども、それまでの年代の方については一定以上、平均以上の取得がされております。また、20歳以下の方の取得が少ないという状況につきましては、県とも協力をしまして県立高校に実際に訪問をして、マイナンバーカード取得に向けての取組も今現在始めておりまして、県立高校では雄城台高校とあともう1ヶ所で行っております。</p> <p>今のところ2つの高校で、実際に出張で申請をするような準備もできているところであります。今後、市民にとっても一定程度メリットのある取組でもありますので、市報とか、広報活動を充実する中で取得率を高めていきたいというふうに考えているところでございます。</p>
企画部長	<p>企画部長の伊藤でございます。</p> <p>民間委託については地場を育てるような対応をお願いしたいということですが、先ほど市長が言われた通りでありまして、土木とか建築につきましては既にそういう取組を進めております。いろいろな委託の形態がございますので、研究しながらできるだけ進めて参りたいというふうに思います。</p>
安部委員長	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。渡邊委員お願いします。</p>
渡邊委員	<p>渡邊でございます。</p> <p>日頃より大分市行政には大変お世話になっておりましてありがとうございます。またこの度、行政改革の推進の中で目に見える形での成果が上がったということで本当にお疲れ様でございました。市民と</p>

してもありがたいことです。

無駄の排除を、一層お願いできればと思いますが、先ほども市長さんがおっしゃったように必要なところへの配分というか、将来への投資などは積極的に行っていただければと思います。

各論に関してですが、先程、マイナンバーカードのお話もありました。まさに若者世代の取得率が低いということ、私たちも伺っておりますので、その若者が集まっている教育機関として積極的に若者たちへ周知をしていきたいと思ひますし、マイナポイントなどの特典を受けられるこの時期に取得してほしいと思ひます。また、取得するだけではなくて、それを使うことで、どのように利便性が上がるかと言うことをしっかり伝えていきますので、いろいろとご教示いただければと思ひます。

私がお伺いしたいところは、資料の2、4ページ目の「多様な主体の連携による活力の創造」です。大分市まちづくり自治基本条例検討委員会に参加させていただきました。コロナや災害などいろいろな出来事がありましたが、基本的な理念や条例そのものを覆すようなことではないということで、条例はそのままで進めてくださいと答申させて頂きました。その中で、様々な立場の委員さんから意見をいただいたのですが、大きく三つぐらいに集約できるのではないかと思っております。

1つ目がやはり周知、認知の課題です。条例自体を普及させることもとても大事ですが、やはり何といたってもその条例の背骨というか、肝のところである、みんなが中心となって、主体となって進めることがこれからのまちづくりにとても大事だっという部分をです、周知していただければと思ひます。早速、今年度の取組として、SNSの活用やわかりやすいパンフレット作成ということで取り組んでくださっております。

2つ目が、人材育成、後継者についてです。やはりそれぞれの地域のリーダーが高齢化していく。自治会が高齢化していく中で、新しい世代ですとか、これからを担う世代の発掘や開拓に取り組んでいきましょう。開拓をしたらそうした人たちの育成に取り組んでいきましょうということ、です。

3つ目が多様な社会、多様性とまちづくりのあり方についていろいろな議論が出たところ、です。目に見える形、見えない形、いろいろな多様性がある中で、そういう人たちを受け入れたり、或いは、共生をしていく中でのまちづくりのあり方を考えていく必要があります。

	<p>以上の3つに大きく集約でき、その中で、大分市の財政、ルール、制度とも合わせながら展開をしていきたいと思いますという結論になったかと思います。そこで、質問ですが、1つ目の周知に関しては少しずつではありますが、取り組まれているということが非常によくわかりました。2つ目の人材育成のところと開拓ですね。地域のリーダーであるとか、それぞれの自治区の人材をどのような形でこれから育てていかれようとしているのか。そういう将来に向けての地域の人材のあり方を、どのようにお考えで、例えば令和4年度の活動の中に取り組として入れられているのか、何かありましたら教えてください。</p>
企画部長	<p>企画部長の伊藤でございます。</p> <p>地域における人材育成というお話でございますけれども、各13地域におきまして地域まちづくりビジョンを策定いたしました。その中で、地域の人に集まってもらって会議をしたときに、わりと自治委員さんとベテランの方が多かったんですけども、PTAの若いお父さん、お母さんですとか中には、学生さんに入っていたところもございました。</p> <p>若い世代に会議の中に入らせていただきまして、まちづくりに興味を持っていただく。その中で、いろいろな街の問題について議論していただき、それを各地域、PTAとか、それぞれの出身母体の団体に持ち帰っていただき広げていただく。そういう取組も進めております。そういうことで、いろいろ大分市の計画を策定する等の中で、若い人たちへの参画というの今後検討していきたいと思っております。</p>
安部委員長	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。谷川委員お願いします。</p>
谷川委員	<p>現在、NPOも随分変わってきました。これまでは、環境や子育てなどそれぞれに特化した分野で活動するNPOがありましたけれど、30代40代のリーダーは課題解決のために多世代、地域全体巻き込んで解決しよう、地域リーダーを育成しようという視点を持った団体が増えております。その時に補助金申請の多世代交流、支え合いといった分野を超えた窓口がなくとても困っている団体さんもいらっしゃいます。少しずつNPOの状況も変わってきていますので住民リーダーの育成や支え合いの分野を跨った対応をしてくださる窓口があると助かります。</p> <p>それが一点と、今防災局にすごくお世話になっておりまして、私ど</p>

<p>福祉保健部長</p>	<p>も、災害時の要配慮者支援というのをやっております。そこで防災局にも大変お世話になっており、柔軟に対応していただいております。</p> <p>その中でやはり、在宅医療ケア児の方ですとかヤングケアラーさん、本当に逃げられない方々ってところのネットワークをNPOが持っておりますので、そういったところの連携を今後も深くしていただければなというのと同時に、他の市町村では個別避難計画の名簿を作っただけ、災害ネットワークが出来ただけで上手く機能していない状況も聞きます。大分市の災害ネットワークも具体的な内容をNPOとも連携ができればと思っています。</p> <p>福祉保健部の齊藤といいます。</p> <p>1番目の多世代交流なんですけども、現在ですね多世代交流事業というのを福祉保健部でやっております。いわゆる、おじいちゃん、息子さん、子供さん、3世代の交流によって地域のお祭りとか、こども食堂とか、そういうことを含めてですね、3世代で交流する事業に対して補助を行うということで、市内で今4団体から5団体が活用しています。是非ですね、そういう団体があれば、声をかけていただければというふうに思っております。</p> <p>それといわゆる災害弱者というか、避難に関することなんですけども、そういう名簿はできておりますけれど、地域の自主防災組織によっては、名簿ができていただけというところも確かにあります。地区によっては、大分市が用意しております補助金を活用しながら、実際に避難ができるような活動を行っているところもあり、こうした支援に努めていきたいというふうに思っております。</p>
<p>谷川委員</p>	<p>やはりこれからは、人材育成のところに重きを置くべきと思っておりますので是非、お願いいたします。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。佐藤委員お願いします。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>こんにちは。佐藤でございます。</p> <p>平素より私達大分市民の暮らしやすい豊かな生活を守るためにご尽力いただきまして誠にありがとうございます。いろいろアクションプランも含めてですね、行政改革を見させていただいているなかで、やはり先ほどからお話があります広報、いろいろなものを周知していくってところで皆様いろいろ知恵を使っていると思</p>

うんですけれども、大分市の市報ですね、こちらがやはりかなり読まれているという方が多いです。意外と言っては大変失礼なんですけど、子育て世代、20代30代の子育て世代もそのターゲットに向けたイベントで「何を見て来ましたか？」ってなった時に市報っていう方が多いんですね。そういうところから、多世代にわたって愛読されている市報で、これは一つの家なんですけれども、こういうふうなんです、我々会議の委員として様々な取組を知ることができるんですが、残念ながら市民に届いてないというところがあるんですね。

便利なものであったりとか、あと有益なものであったりとか、そうした時に例えばその市報の1ページを使って、詳細はQRコードでいいと思うんです。こういう人に対してこういう制度が始まりましたであったりとか、こういうサービスが今年度からスタートしますであるとか。先ほどのマイナンバーカードもですね、一つフレーズを作って、関連のURLに行くようにQRコードを一覧にしていると思うんです。おそらく1ページであれば、20~30項目ぐらいは大分市民にとってプラスになるような情報が一覧で見られるのではないかなと思っていますので、是非ですね、大分の市報の割り付けの再検討、このあたりを一度お願いしたいなと思っています。

というのがですね、私の子供に関することなんですけれども、一時期、心療内科に行っていたことがあります。心療内科になると、どうしても月に2~3回行くようになっていてですね、3,000円近くかかるんです。お薬をいれると4,000円、が3回なんですけれども、ネットサーフィンをしていて何かを見た時に医療支援の制度があることを知りました。それが3割じゃなくて1割負担というものを知って、これって実は病院側はご案内をしてくれずに、私達、利用する側が偶然に見つけて申請するっていう、ちょっとがっかりな結果になってしまったんですね。そして、遑って申請をすることができないというケースがありましたので、そういう、市としては当然やってるサービスであっても実を言うと利用者である市民がなかなかその情報にたどり着いてないというのが結構あると思うんですね。ですので、その辺りの一覧を検討いただきたいっていうのと合わせてマイナンバーカードの登録者数の向上に関して、高校であったりとか今後、教育機関であったりとかっていうお話があったと思います。

保護者に対する案内って、実は中高生って保護者に対してプリントなんかは絶対に見せないんですよ。そして、数か月後にグチャグチャになったプリントがカバンから出てくるところで保護者に対

<p>企画部審議監</p>	<p>するリーチがちょっと難しい。本人にダイレクトに訴求するっていう施策に走っていると思うんですけども、例えば、今度3年ぶりに行われますお祭りであったりとか、その若者が行くであろうイベントのチラシや団扇にQRコードを貼ってマイナンバーカードの申請方法の情報に辿り着くようなものを端的にですね、ダイレクトに届けるような施策、取組を今後ご検討いただければなと思っております。</p> <p>ご意見ありがとうございます。広報担当しております高橋と申します。</p> <p>先程、市報のお話ありがとうございました。ご存知の通りと思いますが、市報は以前まで月に2回だったものが、今、試行期間でありますけれども、月に1回ということにさせていただきます。ただページ数も増やしまして、一回でもできるだけ多くの情報をお届けできる工夫をさせていただきました。今ご提言をいただきましたご意見については大変重要な視点だと思います。</p> <p>私どもとしては市報については、やはり紙面の制限等もございますので、先程おっしゃっていただきました割り付けの工夫でありますとか、QRコード等を使って、詳細なページへ誘導するなどの検討は行ってまいりたいと思います。それから何よりも情報によって、ターゲットが違ってきますので、そういったターゲットを意識した広報にも積極的に努めて参りたいというふうに考えております。ご提案ありがとうございます。</p>
<p>市民部長</p>	<p>市民部の沖田でございます。</p> <p>佐藤委員、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。先ほど言い漏れていましたけれども、今月の26日からこのマイナンバーカード取得をしていない方に順次、再度申請書を国から直接お送りする運びとなっております。そして、これからの保護者に対する対応ですが、先程も言いましたが、20歳以下の方の申請が少ないということで、どうしても保護者の方が手続をする部分も出て参りますので、その辺も含めてQRコード等活用できる部分がないか、再度、内部で検討していきたいというふうに思っております。貴重な意見、大変ありがとうございました。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。土屋委員お願いします。</p>

<p>土屋委員</p>	<p>土屋でございます。</p> <p>いろいろな施策を聞かせていただいて改革が進んでいるということを感じます。ありがとうございました。</p> <p>一方で効率化とか合理化とかいろいろな努力をされているんですけども、ちょっと論点が変わると、それらを壊してしまうのって結構地味な元々のベースであるヒューマンエラーみたいなところが多いと思っております。例えば、4千何百万の誤振込をしてしまった山口県の自治体では、この時代にまだフロッピーディスクを使っていたみたいな、ある種ルールを逸脱した行為が行われていたけれどもそれは黙認されていたということでもありますし、これも最近よく耳にする自治体の外郭団体に使い込みがあったという話も元をたどっていくと、同じ経理の担当を何十年も同じ人がやっていたですとか、制度としてダブルチェックの制度があったけれども、それは全く形骸化していて全然チェックになっていなかったですとか、そういったような事例があります。</p> <p>BPRの手法を活用した業務改革の推進ですとか、デジタル化ですとか、そういったところも非常に重要だとは思いますが、その根底で行政の信頼を崩してしまいかねない、市民の満足度を下げてしまいかねない、そういったヒューマンエラー、或いはその悪意を持った人とか悪意を持った行動の排除という点で、大分市さんはどのような取組をされているのか、お伺いしたいと思います。</p>
<p>総務部長</p>	<p>総務部長の永松でございます。</p> <p>確かに事務処理ミスとかですね、そういったところに対しては本市としてはOJTを通して対応しているところでありまして、限られた人材を最大限活用して、サービス提供に取り組んでいくということで、令和3年3月に人材育成基本方針を改定いたしました。大分市の目指す職員像というのは、情熱溢れ、市民に信頼される職員を目指して人材をマネジメントする視点に立って、必要な人材の確保、姿勢、能力の開発に取り組んでいるところです。</p> <p>特にそういった事務処理の関係につきましては、階層別研修や自主研修、職場研修を繰り返すことで対応しております。また簡易な事務処理の部分については、報告することによって事務処理のミスの共有を図って対応していくという形にしております。</p> <p>なお、市の組織では平均3~4年で人事異動が行われますので、外部団体等におけるそういった同じ職員が長期に亘って同じ業務を行</p>



<p>子どもすこやか部長</p>	<p>うというようなことは、ないものと考えております。</p> <p>子どもすこやか部長の藤田でございます。</p> <p>先ほどの佐藤委員さんのご意見につきまして、若干ですけれども補足させていただきたいと思っております。こういった方法で周知していくのかというようなことに対しまして、私ども子どもすこやか部では、主に未就学児を持つ保護者の方が対象になってくると思っておりますけれども、naana という子育て支援の専用サイトを持っており、そのサイトであったり、また、ツイッターであったり、ラインを利用しているいろんなイベントの周知が発信できるように取り組んでいるところでございます。</p> <p>それから医療費の話もございましたけれども、小・中学生ではございますけれども、今年度10月から1回につき調剤も含めまして、500円というような形で医療費の助成に取り組んでいるところでございます。補足をさせていただきたいと思っております。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。相本委員お願いします。</p>
<p>相本委員</p>	<p>自主財源の確保についてですが、11 ページのふるさと納税のところなんですけれど、寄付件数がこの4年間で1万件から4万8,000件、5倍ぐらい増えて改善効果額がかなり増えてきていると思うんですけど、一方で大分市民が他の自治体に寄付するような場合、実質的にその税収が減ってるという見方もできると思うんですよ。感覚で申し訳ないんですが、ふるさと納税が始まったころは、差し引きすると赤字だったのかなと思ったりもするんですけど、細かい数字は結構なんですけれど、現状はプラスマイナスがどうなっているとか、普通交付税の算入など、実質的な財政の影響を教えていただければと思います。</p>
<p>商工労働観光部長</p>	<p>商工労働観光部長の三好と申します。</p> <p>ただいまご質問をいただきました、ふるさと納税の寄附額、それと大分市民の方が他都市に寄附をした時の関係についてのご質問だと思います。</p> <p>まず、令和3年度につきましては、ふるさと納税額が約9億7,000万円、経費が約5億3,000万円、ふるさと納税額だけで見れば、納税額の約半分がプラスとなっております。しかし、大分市の方が他都市</p>

	<p>にふるさと納税をすることがどうしてもありまして、このような場合、国からの交付税措置でその額の 75%は交付税として国から大分市に入ってくるというような計算になります。それを差し引きしますと、令和 3 年度で大分市に実質的に黒字というか、そういう形で残った金額として約 2 億 3,000 万ほどが大分市のプラスの収入となっております。</p> <p>これは令和 2 年度からそういう計算をした上でのプラスが出ている状況でして、令和 2 年度の 2,000 万円から令和 3 年度の 2 億 3000 万円で、約 2 億円以上のプラスが出ているという状況にあります。</p>
安部委員長	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。渡邊委員お願いします。</p>
渡邊委員	<p>渡邊でございます。</p> <p>毎回ご意見させていただいておりますので、最後に一つ申し上げます。12 ページの女性職員の活躍に向けた取組というところで、毎回、目標値に対しての数値も上がり、今日も女性の部長さんがお二方いらっしゃっています。目に見える形でこういう成果が出ていますので、是非、これを続けていただければということと、他組織、特に中小の企業や小さな組織とも連携というか、繋がりを持って進めていただければということです。また、マイナーというかマイノリティーというか、組織の中で主流ではない人たちが 3 割集まれば、新しい意見が出たり、イノベーションが起こる可能性もあると言われておりますので、今後も多様性の活用を目指して、是非このまま進めていただければと思います。</p>
安部委員長	<p>それでは時間がきておりますので次の議題に行きたいと思っております。本日 2 つ目の議題は、新・大分市行政改革推進プランの策定についてでございます。事務局は説明をお願いいたします。</p>
行政改革推進室室長	<p>それでは、右肩に【議題 2】資料と記載された資料、「新・大分市行政改革推進プランの策定について」をご覧ください。</p> <p>あらためまして、現行の「大分市行政改革推進プラン 2018」は、平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間の計画期間としており、基本方針に「将来を見据えた行財政運営の推進」を掲げ、5 つの方向性(柱)のもと、計画目標として改善目標額を設定し、各推進項目及び推進プログラムに取り組んでおります。今年度はその計画期間の最終年度で</p>

ありますことから、引き続き本市の行政改革に対する基本姿勢を継承するとともに、社会経済情勢や本市の財政状況における課題への対応を図っていくため、現行プランの運用面での課題等も踏まえながら、令和5年度以降の新しいプランを策定することといたします。

新プランの策定方針の主なポイントでございますが、まず、1点目といたしまして、「新たな時代に向けた変革への挑戦」と、「不断の取組の継承・強化」の2つの側面から各種課題へ対応し、効果的な取組の推進を目指すことを基本的な方針としてまいりたいと考えております。

2点目は、計画の体系についてでございますが、現在の5本柱を再編し、目的と手段を明確化して、より効果的に推進を図ることを目指します。具体的な「目的」といたしましては、「利用者目線でのサービス向上」、「持続可能な行財政運営」、「新たなニーズやリスクへの対応」、「未来を創造する経営資源（財源）の確保」などを考えております。また、具体的な「手段」といたしましては、「業務手法・ルールの改革」、「組織・人の改革」、「多様な主体との連携」、「歳入・歳出改革」などを考えております。

3点目は、計画目標に関してでございますが、近年の行政ニーズの高まりに応じ、行政マネジメントの観点から、効果額だけでなく、幅広い評価の視点で進捗管理を行うプランへの転換を目指していききたいと考えております。

最後に4点目ですが、情勢の変化にも対応できるよう、推進項目や推進プログラムを、毎年度更新する方式に変えるなどの改善を検討してまいります。

次に策定体制についてでございますが、本市の行政改革を推進するための組織として設置している、「大分市行政改革推進本部」において、策定に関する意思決定を行うこととし、具体的な策定作業については、各部局に設置している「行政改革推進班」や、庁内横断的な調整を図るために新たに設置する「策定プロジェクトチーム」を中心に進めてまいります。また、策定に当たっては、現在本市における行政評価の実施及び行政改革の推進に関し、市民から広く意見を聴くために設置しております当委員会から、意見をいただくよう考えております。

最後に策定スケジュールについてでございます。本年5月に大分市行政改革推進本部会議にて、先ほど御説明いたしました策定方針を決定し、現在庁内で策定作業を進めているところであり、11月中頃に

<p>安部委員長</p>	<p>新プランの素案を内部で決定する予定です。素案について、委員の皆様のご意見を伺いたく、12月21日に委員会を開催させていただきたいと考えております。その後、パブリックコメントを実施して、広く市民の皆様からのご意見を募集した後、再度その結果を皆様に報告させていただきたく、これについては来年2月1日に委員会を開催させていただきたいと考えております。皆様のご意見を意見書として取りまとめさせていただいた後、これを踏まえて新プランの最終決定をし、4月から施行いたしたいと考えております。</p> <p>議題2についての説明は、以上でございます。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明についてご意見、ご質問等ありませんか。</p> <p>私の方から1つ意見というか、お願いがあります。11月に素案が決定されて12月に委員会を行うというスケジュールになっていますが、できれば、ある程度素案ができ上がった段階で、1度個別に委員さんたちの所に足を運んでいただいて、その段階で少し委員さんの意見を吸い上げた形で内部でもんでいただくと、より良いものができ上がると思います。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。佐藤委員お願いします。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>先程は追加で情報ありがとうございました。</p> <p>令和4年度のスケジュール目標ですね、いろいろ拝見させていただいた中で、策定方針の中で、利用者目線でのサービス向上と書かれております。これは行政のサービスのみならず、やはり我々も民間企業のサービスっていうところも非常にそういうユーザビリティの意識ですね、この辺りは強く考えないといけないかなというところがあります。そんな中で例えば、私たちも働く子育て世代応援サイト「ママのままプロジェクト」というものを持っているんですけども、そういうコミュニティを使ってですね、どういうふうにしたら、自分たちの生活がより利便性の高いものになるのか、どういう手段で大分市のサービスの情報を入手するのであるとか、いろいろ一般市民の意見を聞く座談会であったりとか、高校生や若い人たちを集めての座談会であるとか、もう少し我々委員の意見もそうなんですけれども、この策定の前段階ですね、ユーザーとなる市民の声を直接聞くっていう機会も創出していただけるといいかなというふうに思っております。</p>

安部委員長	他の方、ご質問ご意見はありませんか。丹羽委員お願いします。
丹羽委員	<p>丹羽でございます。</p> <p>最初の私の意見に戻るんですけども、新たなまちづくりの中心概念に、やはり『市民の満足度』というのは非常に重要で、岸田内閣のデジタル田園都市国家構想によっても、ウェルビーイングを追加して住民の健康や幸福を測定評価してまちづくりに生かすということが出されていますし、昨年11月のデジタル庁でしたか、地域ごとにウェルビーイングの指標を定期的に測定して、KPIを設けて恒常的に改善した方が望ましいとかいうような意見も出ていました。</p> <p>科学技術や工業技術を駆使しての便利さや一時的な快適さが恩恵を受ける市民の満足度とイコールならばいいんですけども、その辺りのところがちょっとずれている構図も見えているような気がします。もう1回最初の意見に戻りたいのが、『大分市民意識調査』の中で、資料②で示されているネーミングライツや、その他の取組の認知度ですね、これが行革についての質問内容の中に入っているんですけど、なかなかアンケートに答えてくださる方たちに知られていないというところがありました。知られていなくて「満足度」が低く出ているのであれば、ここが一番の問題かなと思います。</p> <p>市政の『取組』や『成果』、それから、こんなところを『課題』に感じているということ、正しく伝えていただいて、政策・施策の成果を市民に向けて示すあり方を検討するということが求められていると思います。正しく『大分市民の満足度』を把握して、次期のプランに生かしていただけるということで、今後も進めていただければと思います。</p>
安部委員長	他の方、ご質問ご意見はありませんか。江口委員お願いします。
江口委員	<p>今度作る新プランですけど、これまでの過去の取組をしっかり把握して、市民立場で作るのがいいんじゃないかと思います。特にプランの「策定方針」にそって検討する必要があると思います。</p>
安部委員長	他の方、ご質問ご意見はありませんか。石井委員お願いします。
石井委員	<p>基本方針そのもの策定方針については、全くもって大賛成でございます。こういう形がよろしいかと思っておりますので、先ほど申し上げた通</p>

	<p>り、行革というちょっとシュリンクするようなイメージがあるんですが、拡大の「拡」で「行拡」でも面白いんじゃないかというふうには思っているところであります。</p> <p>必要などころに対して外部連携をしながら人を育て、必要な投資はぜひしていただきたい。それを大分市がやらないとおそらく周辺の市町村はできないんじゃないかというふうに思っておりますので、ぜひ、周りを含めたところで中心となる大分市が必要な投資を行っていくという意識のもとに、新たな計画を作っていただければというふうに思います。そして、この冊子を見ると文章ばかりで読みにくいと、いうところもございます。是非ですね、何かイメージのようなものをこの中に入れていただければなと思っておりますし、先ほど申し上げた平成29年の財政状況の公表などではグラフがあることで、パッと見た時にいろんなものが見やすく、公債比率がどうなっている、プライマリーバランスがどうなっているってところもパッと見たときに見やすかった。是非、わかりやすく示していただければなというふうに思っております。それが、皆さんの興味を引いていくことにもなると思います。ぜひそういう作り方をしていただければなというふうに思っております。よろしくお願いします。</p>
安部委員	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。渡邊委員お願いします。</p>
渡邊委員	<p>今、石井委員もおっしゃったところなのですが、私もまさに行政の方々に、ぜひ多くの組織と連携しながら、ソーシャルキャピタルとして、率先して社会の中で新たな価値づくりを行っていただければと思っております。</p> <p>その中で1つ質問なのですが、策定方針の3つ目のところで、行政マネジメントの観点は効果額だけではなくて、幅広い評価の視点と書かれていますが、その点に関しては、何か具体的にありまか。先ほどの、例えば市民満足度なども含めてのことなのか、或いはもっといろいろに、新たな視点があるのか、お考えをお聞かせください。</p>
企画部長	<p>企画部の伊藤でございます。</p> <p>これまでの行政改革推進プランは、計画の目標として75億円という数字、改善目標額を設定しておりました。どうしてもやはり、お金を稼ぎ出すための計画という色彩が強くございましたけれども、新しい計画におきましては市民満足度といいますか、市民のより良い生活</p>

<p>安部委員長</p>	<p>を築くため、どのようなことができるのかということを中心の視点に置きまして、満足度のアップでございますとか、そう言ったことを検討してまいりたいと思います。</p>
<p>谷川委員</p>	<p>他の方、ご質問ご意見はありませんか。谷川委員お願いします。</p> <p>NPO の立場から、この方針をととても楽しみにしております。先ほどから満足度という言葉がかなり出ておりますが、この委員会の委員の皆様だけでも様々な分野の方が揃っていますので其々に分野の受益者の意見が耳に届いてるかと思ひます。</p> <p>満足度調査の分量でなくてもグーグルフォーム等簡単な方法でも構わないので、市民目線に基づいたアンケート調査も行って欲しいです。</p> <p>委員の方々に現場の状況をヒアリングするなど。県内のNPOの支援をしておりますと、受益者や市民団体から現場の状況を聞くことが多いです。産後ケアの例で話しますとサービスを受ける場合、毎月、市役所や保健所に直接行って申請しなければサービスを受けられない。子供さんが入院してお母さんだけ退院等の母子分離の場合は産後ケアサービスを受けられない場合があると聞きます。産後に対面での申請は無理な場合もあり、サービスを受けるにはいろいろなものの条件があると思ひますが、オンラインなどの方法や市民の目線で考えたサービスの向上というところは大事と思ひます。</p> <p>幅広い分野で調査し、深掘りしながら新プラン策定に生かしていただければと思ひます。</p>
<p>安部委員長</p>	<p>他にありませんか。それでは特にないようですので、締めたいと思ひます。</p> <p>まず、本日は大変長時間でございましたが、いろいろと貴重なご意見が出てまいりました。是非、市の方でご意見を参考にさせていただきながら新しいプランの策定や今後の行政改革を進めていただければと思ひます。</p>
<p>企画部次長</p>	<p>安部委員長ありがとうございました。</p> <p>事務局より、今後のスケジュールについてご連絡をさせていただきたいと存じます。</p> <p>次回の第2回大分市行政評価・行政改革推進委員会は11月2日水</p>

	<p>曜日の 13 時 30 分から 15 時 30 分までの時間で開催を予定させていただきます。次回の委員会では行政評価についてのご審議をいただきたいと存じます。場所や、議事内容等の詳細につきましては、準備が整い次第、改めてご連絡をさせていただきたいと存じます。</p> <p>それでは、最後に市長より御礼を申し上げます。</p> <p>本日は大変貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。市議会とは、また違った視点からですね、新鮮で様々な指摘いただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。</p> <p>やはり行政改革という、どうしても昔は行政というのはスリムであればスリムであるほど良いということで、削って削ってという考えがありましたけれど、今日のご議論でですね、むしろ必要などころをしっかりとやっていくために何を進めていく必要があるか、そして、人をどのように育てていくか。そしてまた、行政改革を進めるにあたりまして、よりたくさんの方の意見を聞くこと、それから今、行政が取り組んでいることについて、どうやって情報発信をしていくか。知られていない取組が多い点については、認知度をどのように高めていくか。その取組のキーワードというのは、やはり市民の皆様の満足度ですね、行政体制の満足度をどのように高めていくか、そういう視点からですね、新しいプランを作っていくべきだというふうなご指摘をいただいたと感じております。</p> <p>私どもとしましては、ハードルを一段高くしていただいたと感じておりますけれども、今日、お答えしていただきました事務方、部長さん方皆さんもですね、大変、望むところだと思っております。</p> <p>今日、頂きましたご意見を踏まえまして、しっかりとプランの素案を作りまして、事前に委員の皆様にご説明させていただきたいと思しますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>以上をもちまして令和 4 年度第 1 回大分市行政評価・行政改革推進委員会を終了いたします。</p> <p>本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>
	<p>企画部次長</p>